

KTK ひゅうまん 京都

No. 515 2019年10月号

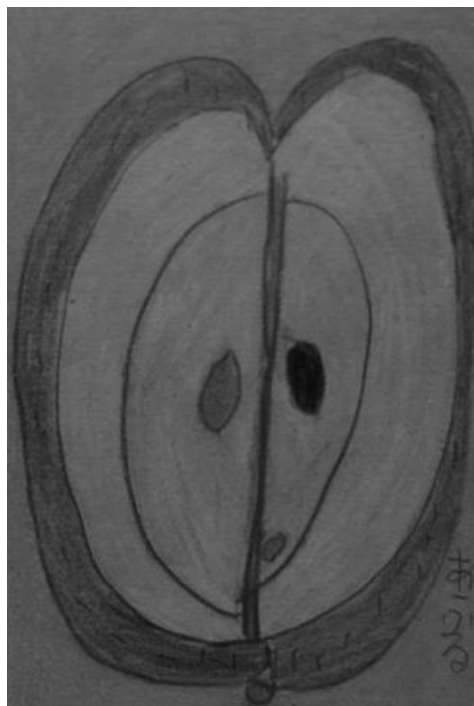
編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町 85 弥生マンション内
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX (075) 465-4310 購読料 1部 80円 年間購読料 1,000円(送料実費)

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| P 1 左大文字 つどめ | P 7 2+2=詩 赤富士文兼 |
| P 2 常任委員会から 池添 素 | P 8 尊厳ある暮らしの保障 中野 加奈子 |
| P 3 「優生思想」を考える 中村 暁 | P 9 背中を伸ばしてひとと一緒に歩む 56 すぎな |
| P 4 車いす視点から社会を斬る 80 矢吹文敏 | P 10 視覚障害者のサークルめぐり 94 一谷 孝 |
| P 5 聴覚障害者は訴える 篠田 あゆみ | P 11 知っ得情報 松本 美津男 |
| P 6 多様な視点をもって 垣田 貢仁子 | P 12 ありがとうございます・催し案内 |

左大文字

先月号に記した英国の介護者団体訪問の続きだが、幾つかの団体訪問で感じたことのひとつが「メンバーシップ」▲組織にはその目的や理念をもちろんだが、組織を構成するものの資格や要件がどのようなものであるかについては欠かせない条項だ。だから組織の大小を問わず、これらのことが記されている会則等々を備えているのが常だ。どのような人がどのような手続きによって会を構成するのか、彼らはどのような方法をもって会の理念や目的実現のために貢献するのか、そして会員であることの意味は何なのか▲ADI(国際アルツハイマー病協会)は1国1団体支部で構成されているが、各国の実態は実に多様だ。本人と家族を核とする組織もあれば、研究者や専門職を中心とする組織もある。会員制をとらないところもある。財政力も違えば、政府との関係もいろいろだ。メンバーシップでいえば多様な背景と到達度合いにある各国組織がつながる仕組みが、ADIというネットワーク組織だ▲介護の分野で、いま多くの介護関連組織が立上っているが、その組織構成もいろいろで、SNS等のIT技術の進展はそれに拍車をかけている。介護に必要な本人とその家族・支援者のニーズを掘り起こし運動と政策に練り上げていく仕組みに必要なメンバーシップとネットワークのあり様が問われているようだ。私の関心はこのテーマに収斂している。

つどめ



「なし」
渡辺あふる

常任委員会から

〈大型台風がまた!〉

この原稿を書いているたった今は、大型台風19号が近畿圏にも暴風雨をまき散らして、日本上陸しようとしている。19号は

世界的にも注目されている大型台風。それも、その前の台風で大きな被害にあっている千葉も通過する進路、それだけはヤマテとここから願います。しかし、台風が悪いのではなく、異常気象を引き起こしている地球温暖化の影響といわれていて、もとをたざせば、この地球の危機を無視してきた企業や無関心だった大人たちの責任といってもおかしくないでしょう。しかし今嵐の真ただ中、たくさん心配が募ります。停電になつたらと考えると、人工呼吸器を使用している方たち、痰の吸引

が必要な方の心細さを身近に感じます。もちろん万全の対策は取っておられると思いますが、不安が長引くとストレスがたまり、体調にも響きます。

家の中に閉じ込められると、それがとつてもつらい子どももいます。療育の児童発達支援事業所も暴風警報が出たのでお休み。朝事務所で待機していたら、やはり3名の親子が休園を知らずに来所。せっかく楽しみに来たのにお休みで、シブシブ帰っていきました。事業所だって、閉めるとその日の報酬はゼロです。できることなら事業をした

いですが、何かあつては取り返しがつきません。保護者との契約で実施している以上、利用がないのに利用料を取ることができない理屈です。そもそもの契

約という仕組みが障害児支援になじまないこと、事業所の運営を不安定にする日払い方式もなじみません。災害やインフルの流行など、不可抗力なことが起こることは承知のうえでの仕組みですから腹が立ちます。

〈なぜ打ち切り?〉

7月31日、京都地裁に、障害のあるひとり親の児童扶養手当併給調整違憲訴訟が提訴されました。この裁判は、ひとり親で障害基礎年金を受給すると児童扶養手当がもらえなくなることへの異議申し立てです。配偶者がいる場合は、一人が障害基礎年金を受給していても、配偶者が児童扶養手当ももらえるのに、ひとり親ではもらえないのはおかしいという内容です。原告は難病を発症し、4人の子育てをしている、ぎりぎりの生活で児童扶養手当を打ち切られることで、生活の困難が生じています。この裁判の第1回高等弁

論期日は10月25日(金) 11時30分から京都地裁208号法廷で行われます。期日終了後には、京都弁護士会館にて報告集会も予定されています。

〈全国集会と40周年〉

第53回障害者の生活と権利を守る全国集会(11月24日国立オリンピックセンター)中央行動(25日)行われます。25日の午後は、「養護学校義務制40年今こそ障害児の教育権を問う」全国集会が開催されます(13時30分から、国会議員会館)。障害児にも教育を!のねがいが実現したのはわずか40年前、それまでの歴史と現在の障害児教育を問い直す意味を一緒に考えましょう。

池添 素(京障連事務局長)



「優生思想」を考える

太田典礼氏という人

1948年の優生保護法成立にした。一見、無軌道にさえ思える関する書籍に少なからず登場する人物が、故・太田典礼氏(おおたて んれい・1900-1986)です。私自身、以前から太田氏に少なからぬ興味を抱いており、小さな研究会で太田氏のことを取り上げるべく、可能な限りのご本人の著書や評伝、資料にあたりました。まだ研究は道半ばですが、太田氏の人生や思想を考えることは、優生保護法の成立の歴史背景を知ることのみならず、なぜ今日なお優生思想が生きているのかという問いを解くために、貴重な補助線になると感じています。

一見、無軌道にさえ思えるキャリアですが、その生涯にわたる顔をのぞかせるのが、若き日に呼んだ「マルサスの人口論」の強い影響です。

東京大学人文社会系研究科の大谷いづみ氏は、「太田典礼小論―安楽死思想の彼岸と此岸―」で、太田の仕事の次のように指摘しています。「…バース・コントロール運動はマルサスの人口論に端を発しているが、典礼にとつては、産児調節運動、優生運動だけでなく、安楽死運動もこの文脈にあった」。

Thomas Robert Malthus (1766-1834)は、1768年に『人口論』を発表。「人口は幾何級数的に増加するが、食糧は算術級数的にしか増加しない」。人口増加が進むと社会の貧困が深刻になる。人口抑制が必要だ。マルサスは人々

います。1922年には改造社がアインシュタインらを招聘した講演会の一環に、産児調節運動家であったマーガレット・サンガーを招き、太田氏がそれを熱心にサポートしたといえます。

(中村暁・医療団体)

太田氏は、48年の優生保護法成立に関与した政治家であり、産婦人科病院を経営した医師であり、著述家です。避妊具である太田リングの開発者であり、産児調節運動や日本安楽死協会(現・一般社団法人日本尊厳死協会)を立ち上げた社会運動家です。晩年には小説さえ著し、文化人と呼べる一面も持つ人物です。

主要参考文献
・『国策と犠牲』山口研一郎編著・社会評論社刊
・『安楽死のすすめ』太田典礼著・三一書房
・論文「太田典礼小論―安楽死思想の彼岸と此岸―」大谷いづみ著

70年代には青い芝運動から(障害者殺しの思想)の持主として批判を受ける一方、戦中・戦前には治安維持法で2度投獄された共産党シンパとしての顔も持っていました。

太田氏の評伝によると、旅行先の北海道・阿寒湖で後に外交官

「・産む、死ぬは自分で決める 反骨の医師 太田典礼」稲子俊男著・同時代社刊

になる藤村信雄と知り合い、人生を語りあい、後に藤村の著書である『人口論マルサス説』を送られたのがその思想との出会いだったとい

車いす視点から社会を斬る！

矢吹 文敏（日本自立生活センター）

【情緒崩壊の危機】

歳と共に視力に自信がなくなり、四十年以上乗り回していた自動車の運転も止め、近年は電車の移動が中心となっている私である。

毎日のように乗降するうちにいつの間にか近鉄向島、近鉄十条駅、京都駅の駅員さんとも顔なじみになり、色々世間話をするようになっている。

車内風景も日々に変化し、人々の生活や人間性の一部が見えてくる。

☆

ある日、向島駅から地下鉄丸太町まで出かけるとき、途中丹波橋駅あたりから乗車してきた女の子とその妹とお母さん、そしてお母さんのお友達らしい人が運よく座席に乗

ることが出来た。お母さんは

お友達とお話をしている中、女の子は妹と話をしながらときどき私のほうをチラ見する。

そのうちしつかりとこちらを見ていたので、私は指を使って「親指切り」とか「親指隠し」の手品もどきをやって見せた。

するといつの間にかお母さんがそれを見ていて、驚いたふり(?)をしながら妹のほうに何か小声で話している。

そこで私は、一切しゃべらないまま、女の子に「じゃんけん」をしかけた。

すると見事に反応してくれて、少し離れた座席の間でじゃんけんが始まった。

第一回目は私の負け、二回目も負け、そして三回目も私

が負けてしまった。

まさか？ なぜ？

別に私は、子どもだからと言って遠慮したわけでもなく、グー、チョキ、パーを順序通りに出していたわけでもない。

しかし、彼女たちが京都駅で降車するまでに七回のじゃんけんを行ったが、私は全て負け。その女の子は特別笑顔で妹たちと得意げに降りて行った。

じゃんけんに負けたことは悔しいのだが、それにも増して女の子万歳！という嬉しい気持ちを含め合った。

☆

世間では相変わらず目を覆いたくなる、耳をふさぎたくなる理解不能な出来事や事件が起きる。

☆

父親が自分の子どもを殺し、母親が無理心中と称して子供を殺してしまい、自分は生き残る。

いじめ対策を担当している

教師たち四人が若い男性教師を虐めていたという。しかもそれを女性教師が笑いながらしかけて動画まで映している。自分たちの立場もまるで忘れ、餓鬼の遊びに興じている。およそわが国の人間教育の完全崩壊の絵面ではないか。

今の世の中は、私が代表を務める組織にしても、予想もしない出来事があれば記者会見で謝罪しなければならぬことが皆無であるとは言い切れない。

いつの間にか自分の感覚が鈍り、どんなに残酷な事件が起きてても驚かなくなっている自分がいることにも気が付き、精神が委縮してしまっている。

せめて嫌なニュースを避け、ほっこり、にっこり、ゆつたり出来る環境に身を寄せ、自分の喜怒哀楽の感情を取り戻したいと思う今日この頃である。

聴覚障害者は訴える

大型の台風19号が本島に上陸中、どうか大きな被害が出ませんようにと願いながら執筆しています。

京都府聴覚障害者協会の事務局から理事MLで、北部・中部・南部の地域に点在している会員に警戒のよびかけと被災状況の報告と一斉メール送信を受けました。当協会に災害対策部を設置し、頃から災害対策、防災に関する情報の発信、京都府聴覚障害者災害対策本部の運営など活動を行う役割があります。府内でも、各地域レベルで当協会支部と手話サークルが災害対策部を立ち上げて、防災学習会や防災訓練や消防署等への啓発活動を行っています。

☆

私が住んでいる京都市右京区でも、支部会員約70名と手話サーク

ル会員で右京支部災害対策部を結成し、定期的に会議や安否確認メール送信など活動をしています。町内の回覧版で、防災訓練の参加呼びかけがされていますが、手話通訳や要約筆記の情報保障がなくほぼ聴覚障害者は参加しにくいです。町内に手話で話せる人が少なく、近所のつきあいが薄い聴覚障害者がほとんどです。もしも、震災が起きたら・・・台風で避難勧告が出たら・・・

聴器の電池が切れて聴こえなくて困った」「おにぎり配給など情報を知るのが遅く列をだいぶ並んだ」「今、家に帰っていいのかわからない」「どうか状況がわからなかった」など被災者の訴えを聞き、緊急事態に起こった時の情報支援のありかたを考えさせられたと報告の内容でした。

何が一番不安だったのか？何が一番必要だったのか？それは、手話通訳をつけるのではなく、まわりが聴覚障害のことを理解すること、そして聴こえない自分から何をしてほしいか具体的なことを伝えることです。手話通訳者も家族がいて自分の身に何が起こるかかわからず被災者になる可能性があります。私たちは身近に

いる人たちに聴覚障害の理解を求め、「文字化にしてほしい」「声かけてほしい」と伝えること、私たちは、助けを求めるだけではなく助け合いをする役割を果たす地域の住民の一人一人です。右京支部の災害対策部は、地域の防災訓練の前に消防局など担当と打合せをし聴覚障害者に積極的に参加を促し、当日は聴こえる人も聴こえない人も助け合いをしながら取り組めるよう普及活動を行っています。

☆

行政や病院や消防局等にも、避難所には文字の電子版を設置したり全国に手話通訳者派遣を要請するシステム体制を行うマニュアル化、聴覚障害児・者やその家族の心身的な支えとなる専門支援員を専門機関に配置させる等環境整備をしてほしいと要望を出しています。



篠田 あゆみ

(京都府聴覚障害者協会理事) 5

多様な立場の視点をもつて

弁護士・垣田 貢仁子

急に涼しくなり、秋が深まってきました。今年もあと2ヶ月ほどで終わりですね。皆さんにとっては、どのような1年でしたか？

☆

私は、年初にジョナさんの弁護士団に入ったことが今年を代表する出来事だったと思います。障がいと社会とのかかわりについて意識的に情報に触れ、考えるようになったからです。

私は、ミュージカルや舞台が好きで継続的に観劇しています。今年、車椅子ユーザーの観劇に関するニュースにとっても驚きました。

「介助者が劇場内に入って車椅子ユーザーの観劇体制を整える手伝いをするためにもチケット

トが要ることに対する改善を、車椅子ユーザーがTwitterで訴えた」というニュースです。劇場内での介助のためには、介助者が観劇しなくても、チケットが2枚（車椅子ユーザーと介助者の分）必要とのことでした。

このニュースを見て、「ええ!! おかしいでしょ」と私はびっくりしましたが、このツイートが話題になるまで、そのようなチケット問題があることさえ知りませんでした。介助者が舞台を見ない（開演中客席に入らない）のであれば、チケットが無くても上演時間外に劇場内に行き介助し、上演中はロビーに待機してもらう方法で、興行側の収益的には何らの問題にならないように思います。

このツイートは、俳優の城田優さんに繋がり、彼が主演された舞台『ピピン』の入場ルールの変更に関がりました。『ピピン』上演の全会場にて、座席に座らない介助者に限り、チケットが無くて一時入場できることになりました。

私は、その後、車椅子ユーザーの場合はせっかく良い席のチケットが取れたとしても、車椅子スペースに案内される、ということにも初めて気づきました

（車椅子席のチケットが販売されていることもあるようです）。席の他にも、劇場内バリアフリー、トイレの整備や、来場手段への配慮など、色々考えるべき点があることにあらためて気づきました。もちろん昔に比べると随分バリアフリーが進んでいるようですが、あらためて意識的に見てみると、まだまだ改善すべき点があると感じます。

舞台の上では、多様性が当た

り前に描かれるようになってきました。観客側にも多様性がもたら広がりといういいなあと感じています。実際の舞台の迫力や訴求力、ライブ感は格別です。観客の反応によって舞台上の演技が変化することもよくあります。時には観客と演者の掛け合いもあります。演者と観客が一体となって劇場空間を創造する、多様性を体現・体験できるようにするといったいいなあと感じます。

☆

今年は、観劇以外にも、アウトサイダーアートを改めて勉強するきっかけとなったり、Eスポーツ、e裁判などを障がいと社会との観点から考えるきっかけとなったり、私の視野は大きく広がりました。来年に向けて更なる世界の広がりに関心し自分自身も期待しています。

2+2=詩

「オルゴール」

オルゴールはくるくる回る。

きれいに調律されたメロディーを、

何度も何度も繰り返し、奏で続けて。

いついつまでも続くように。

オルゴールはくるくる回る。

ふと気づいたときには、

変わらないうちと思い込んでいた聞き慣れたメロディーは、

音程が少し外れていて、

一度気づけば演奏が一巡するその度に、

少しずつ摩耗していくパートに気づく。

それでもオルゴールはくるくる回る。

停止スイッチなどないのだから。

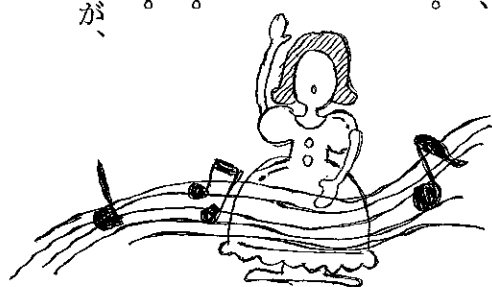
オルゴールは動いていない。

止まったのは果たしていつだったのか。

汚れて壊れて、一音程すらもう出ない。

ただ思い出の中に残るメロディーだけが、

かすかに響き続けているだけ。



「ビー玉」

引き出しの中にビー玉が一つ。

花壇の土を掘っていて、見つけて拾ってきたものだ。

深い緑のその玉は、少し歪んで濁ってる。

なんでどうしてそうなった？

理由を聞いてもビー玉は何も語らず、

濁った玉の内側に何かを映すこともない。

ただ、今この手の中に来るまでに、

きつと相応の物語があったのだろう。

そんな想像を巡らせながら、指先でもてあそぶビー玉一つ。

少し歪んで濁ってしまった、深い緑のビー玉一つ。

「梢の舞踏会」

気まぐれ風が演奏をはじめたら、

合わせて葉っぱが踊り出した。

そよそよ吹いた優しい音には、

ゆっくりふわふわ軽めのステップ。

びゅうびゅう唸る風の音には、縦横無尽に激しい舞踏。

揺るやも激しくもなんでもござれ。

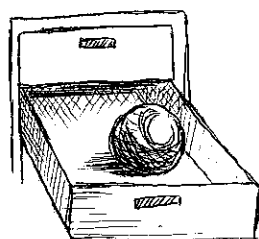
風の演奏、葉っぱの躍り。

びたりと合った即興のセッション。

気まぐれに始まり、気が済んだら終わって、

その気になったらまた始まって。

幕が下りきることは決していないだろう。



作・赤富士文兼 挿絵・水口萌恵

尊厳ある暮らしの保障

―生活保護制度のイロハと明日

中野加奈子（大谷大学准教授）

（10）生活保護の海外と

日本の違い

皆さん、ハリー・ポッターをご存知ですか？小説も映画もあります。両方とも老若男女、世界中で大人気ですね。このハリー・ポッターシリーズの作者は、各国の社会保障制度（年金は、30代の時にパートナーと不仲になり、家を出てシングルマザーになります。小さな子どもを抱え、すぐには家も仕事も見つからず、生活が困窮しました。さらに離婚という辛い経験もあって、うつ病になります。そこで彼女は生活保護や住宅手当を申請して、生活を立て直しました。そして、以前から温めていたアイデアをまとめハリー・ポッターの最初の物語を書き上げます。

☆

また、各国の制度を見ていると扶養義務の範囲の違いに気づきます。例えば、フランス、イギリス、スウェーデンでは「配偶者間及び未成年の子に対する親」となっています。一方日本では、「配偶者間、親子間、兄弟姉妹間及びその他の3親等内の親族」とされています。こうした、「成人した子どもが親を扶養する」ことが求められているのは、日本の生活保護の特徴と言えるでしょう。

また、生活保護の捕捉率（生活保護基準以下の所得の人で、実際に生活保護を利用している人の割合）は、ドイツでは約65%、フランスでは約92%ありますが、日本ではわずか20%足らずとなっていると言われています。

面ばかりではありません。日本と同様にバッシングの対象になることもあるし、アメリカの制度では給付期間に制限がついており、困窮していても制度を利用できない状態になってしまう人もいるなど、課題を抱えています。

☆

なぜ、偏見・差別が生み出されるのか。どうしたら、安心して暮らせる制度にできるのか。国境や文化の違いを超えて、手を取り合い、要求しなくてはならない、と思います。

次回は（11）ホームレス支援と年末年始です。福祉事務所が閉じる年末年始の課題について触れます。

海外の生活保護は優れている

背中を伸ばつてひょひょ一緒に歩む

すぎな（訪問看護師）

56 素麺と薬味

「お素麺、もらつてくれないかしら？」

一人暮らしのキッチンで、素麺は便利な素材のはずなのに、何故かAさんは大した量でもない貰い物の素麺を、人に譲りたがった。その他の、もつと処理がめんどくさそうなカボチャや瓜などはとても喜んで調理しておられた。「それくらいの量、茹でて食べてしまえばよいではないですか。」そう言つても首を振るばかり。素麺が嫌いなわけではないらしく、夏のテレビ番組で素麺特集などを喜んでみておられた。

☆

Aさんは、70歳代。昔のキャリアウーマンで、独身とおしてきた。40歳代で両親が亡くな

さんついていなければならぬものと決まっているようだった。

一方、長男が両親に先立つこと10年くらい。長男の嫁は、自分の子供たちが自立して家を巣立った後も、小姑であるAさんと一緒に暮らしてきたことになった。数年前までは。

ある夏の暑い日、「今日のお昼は素麺でもしましょうか。」長男の嫁が言い、二人分の昼食を準備した。茹でた素麺と葱と生姜の薬味ぐらいは付いていたかもしれない。その食卓を見てAさ

んが何を言ったか、想像できる。その日以来、長男の嫁は素麺を食卓に出さなくなり、数年のちには遠方に家庭を持った自分の息子の家に転居していった。そして一人暮らしになったAさんは、素麺をますます面倒なものとして認識するようになった。

おそらく、この事ひとつが原因という訳ではなく、Aさんの物事に対する「〇〇はくでなければならぬ。」という拘りが、日常生活のいろんな場面で縛りを作ってしまった、他人どころか自分自身も縛ってしまったのだろう。凝り固まった思いには、別の見方を受けいれる隙間がない。

☆

Aさんには、サラダにしたり、焼き素麺、カレー素麺など、素麺のいろんな食べ方を教えているが、まだ「それもいいわね。」と言ってもらっていない。



視覚障害者の

サークルめぐり(94)

クラブ員の思い

社交ダンスサロンは、毎月大2・4木曜日の2回、午後から京都ライトハウス4階あけぼのホールで活動しています。

今回の執筆者は、小学校時代は弱視でしたので、普通校に通学していました。途中から京都府立盲学校に転入し、中・高・専攻科まで進学しました。三療の免許を取得し4年間病院に勤め、結婚して大津市堅田で生活を始めました。結婚後は、2人の子どもの養育と主婦業に専念されましたが、20年ほど前に「網膜色素変性症」で失明状態になったため、京都ライトハウスで、家から同所まで通うための歩行訓練を受け、自由に行動できる力をつけた方です。

楽しみと生きがいのある 社交ダンス

(山下恵利子)

私は、網膜色素変性症のため、40歳頃より視力が著しくなり、自力で外出ができなくなりました。京都ライトハウスで歩行訓練などを受け、約1年でJR湖西線堅田の自宅から京都ライトハウスまで自力で行けるようになりました。

その頃、訓練を受けた先輩や友人から「あなたの努力が実を結んで外出できるようになったのだから、ライトハウスで何か希望する習い事や活動をしてみたら」と勧められ、若い頃から憧れていた社交ダンスを見学しました。見学してみてもビックリ!多くの視覚障害者の男女が晴眼者であるリーダーと共に音楽に合わせ颯爽と踊っておられるのです。それを見て早速入会しようと決心しました。

その後、月2回歩行訓練を兼ね

て通い、訓練とダンスに没頭する日が続くようになりました。ダンスの日には、訓練用の服装とダンス用の服装を準備するなど充実した日々が流れました。

ブルース・タンゴ・ジルバ・ワルツ・チャチャなどの音楽がホールに流れる中で、「どれも踊ってみたい、マスターしたい」と希望と願いが膨らむのでした。多くの晴眼者の指導や誘導で力がついていくのを感じました。多くの友達もでき、生まれて初めての20年近く続く趣味となりました。

入会して数年が経ち、神戸で視覚障害者のダンスパーティーがあると聞き、迷っていたところ、友達から誘われて思い切って行きました。数人の友達とダンス会場に入ると、たくさんの方がきれいなドレスを着てステキな音楽に合せて踊っておられました。知らない人から「踊りませんか」と声をかけられ、ぎこちなく踊り始めました。曲に乗って楽しく踊りきつ

たときには、なんとも言えない成功感で胸がいっぱいになったのを覚えています。

会場で、「点字毎日の記者ですがインタビューよろしいでしょうか」と声をかけられ応じました。「先ほどから楽しく踊って折られましたか、あなたにとって社交ダンスはなんですか」と聞かれ、「楽しみと生きがいになっています」などいくつかの質問に答えました。このインタビューは点字毎日に掲載されました。

それから数年後、「あの記事を読んでダンスを始めた人がいる」と知人から聞いて於呂どきましました。その方は、今では私よりずっと熱心な愛好家であり、数倍優れたパフォーマンスをもった人となっているようで嬉しく思っています。

知っ得情報

バリアフリー改修でポイント

松本 美津男

残念ながら10月から消費税が増税されました。増税批判をかわし消費税落ち込みを防ごうと、期間限定で一定の条件を満たす住宅の新築やリフォームした人にさまざまな商品と交換できるポイントを発行する「次世代住宅ポイント制度」が実施されており、その中に障害者に関わるバリアフリー改修がありますので簡単に紹介します。

〈対象工事〉

- ・手すりの設置
- ・段差解消
- ・廊下幅等の拡張
- ・ホームエレベーター新設
- ・衝撃緩和畳の設置

〈発行ポイント〉金額には関係なく内容別に下記のように発行される。

- ・手すり 5千ポイント
- ・段差解消 6千ポイント
- ・廊下幅等拡張 2万8千ポイント
- ・ホームエレベーター設置 15万ポイント
- ・衝撃緩和畳の設置 1万7千ポイント
- ※他のリフォームなども含め、合計2万ポイント以上でないと請求できない。

きない。

※申請には、工事前後または工事中の写真が必要で、撮り忘れた場合、ポイントの発行はされない。

〈問い合わせ先〉

次世代住宅ポイント事務局 (<https://www.jisedai-points.jp>)

次世代住宅ポイント事務局 コールセンター 電話 0570-001-339

(ナビダイヤル) (IP 電話等からは 042-303-1553)

受付時間 9:00～17:00 (土・日・祝日を含む)

あなたもぜひ 仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ(資格不要)募集中
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話 075-432-3636

命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介します



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

■年会費 大城春美・竹下利美・浮田充子・
小宮山繁・馬場勝幸・是沢朗

■分担金 府立高教組盲学校分会・中丹障害児
者の福祉と教育を豊かにする会
(敬略 2019/10/7)

■京都ライトハウスまつり 2019

日時：10月27日（日）10:00~16:00

場所：京都ライトハウス

内容：アトラクションなど

問合せ：462-4400（ライトハウス）

■だまっていたらあかん 介護保険から 20年

日時：10月27日（日）13:30~16:40

場所：ひと・まち交流館京都

資料代:300円

内容：岡崎裕司さん問題提起など

問合せ：441-1266（那須）

■世界報道写真展 2019－WORLD PRESS PHOTO 19－76億の目撃者たち

日時：～10月31日（木）

場所：立命館大学国際平和ミュージアム

内容：世界報道写真コンテストの受賞作を紹介する。129の国と地域から4738人のフォトグラファーが参加し、78801点の応募があった。「スポットニュース」の部では、ジョン・ムーアがメキシコとアメリカの国境で、母親の取り調べ中に泣き叫ぶホンジュラスの少女を捉え、「一般ニュース」の部では、サウジアラビアのカシヨギ記者が行方不明になった事件で、サウジの総領事館に押し寄せる報道陣の姿を写している。地球上で「いま」起きていることを伝える写真の数々を紹介。

観覧料：500円

問合せ：465-8151（平和ミュージアム）

■生かそう憲法守ろう人権

日時：11月2日（土）13:30～

場所：円山野外音楽堂

内容：松元ヒロライブなど 15:15 パレー
ド出発

問合せ：050-7500-8550（実行委）

■京都 DARC16 周年記念フォーラム

日時：11月2日（土）13:30～17:00

場所：ひと・まち交流館京都

内容：薬物依存症者の話など

問合せ：645-7105（京都 DARC）

■京都の医療はどうなるの？

日時：11月4日（月・祝）13:30～16:30

場所：職員会館かもがわ（河原町丸太町下
る）

内容：横山寿一佛教大学教授の話など

問合せ：801-2526（医労連）

■介護保険が始まり 20年・・・安心介 護の要は やっぱりヘルパー

日時：11月17日（日）10:30～16:30

場所：京都社会福祉会館（二条城北）

内容：全体会、分科会など

問合せ：813-4800（京都ヘルパー連絡会）

■考えてみませんか？ すべての子 どもに保障したい《保育の質》

日時：11月24日 13:30～16:30

場所：佛教大学二条キャンパス（二条駅南）

内容：猪熊弘子さんの講演「ひとりひとりが大切にされる保育とは」など

問合せ：801-8810（京都市保育園保護者
会連合協議会）